



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2025年
No.4
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

患者の生活状況（職業）



事例

【事例の詳細】

半年前に新型コロナウイルスに感染した40歳代女性が、難治性の咳の治療のため専門医を受診し、リフヌア錠45mg 1回1錠1日2回朝夕食後14日分が処方された。患者は平素から当薬局を利用しており、薬剤師は患者の職業が調理師であることを把握していた。また、製薬企業のMRからリフヌア錠45mgの副作用について情報を得ていたため、添付文書の情報をもとに味覚関連の副作用（味覚不全、味覚消失、味覚減退、味覚障害）の発現の頻度などについて説明を行ったところ、患者は薬剤の変更を希望した。処方医に連絡し、患者の職業と意向を伝えたと、吸入薬に変更になった。

【推定される要因】

患者は処方医に、職業が調理師であることを伝えていなかった。処方医は患者に味覚関連の副作用を伝えていたが、患者はまれな副作用であると認識した。

【薬局での取り組み】

職業などの患者情報を聴取する。特に注意が必要な副作用がある薬剤が処方された際は、患者に必要な情報を伝え、処方医にも情報提供を行うことを薬局内に周知した。新しい薬剤を採用した際は、製薬企業などから必要な情報を収集する。



その他の情報

リフヌア錠45mgの添付文書 2025年2月改訂（第4版）（一部抜粋）

- 11.副作用
- 11.2 その他の副作用

	5%以上
神経系障害	味覚不全 (40.4%) [†] 、味覚消失、味覚減退 [†] 、味覚障害 [†]

[†] 味覚不全は、主に苦味、金属味及び／又は塩味としても報告された。味覚関連の副作用（味覚不全、味覚消失、味覚減退、味覚障害）の発現割合は63.1%であった。大多数は、ゲーファピキサントの投与開始後9日以内に発現し、軽度又は中等度であり、ゲーファピキサントの投与中又は投与中止により改善した。なお、味覚関連の副作用は曝露量依存的に増加する傾向が認められている。



事例のポイント

- 2022年11月2日に日本咳嗽学会より「ゲーファピキサントクエン酸塩錠（リフヌア錠45mg[®]）の適正使用のお願い^{*}」が公表され、次のように記載されている。「難治性の慢性咳嗽にリフヌア錠[®]を使用される場合は、診断および特異的治療を十分に行った上で導入いただくこと、また味覚障害などの副作用発現の可能性を説明していただくようお願いいたします。」
※ゲーファピキサントクエン酸塩錠（リフヌア錠45mg[®]）の適正使用のお願い（参照2025年3月11日）
- 本事例は、リフヌア錠45mgが処方された患者が調理師であることを把握していた薬剤師が、患者の職業に大きな影響を及ぼす可能性がある味覚関連の副作用について添付文書に基づいた情報を提供した結果、患者が薬剤の変更を希望した事例である。
- 薬物療法は、患者が服用する薬剤や服用目的、服用方法などを十分に理解し、納得したうえで実施、継続することが重要である。
- 患者の職業や生活状況に大きな影響を及ぼす可能性がある副作用を有する薬剤が処方された際、添付文書やRMP資料などを活用して必要な情報をわかりやすく伝え、患者が納得して薬剤を服用できるよう支援することは、薬剤師に求められる重要な使命である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。